



風はPLCから

令和3年3月
鹿児島大学
教職大学院通信第4号
発行 広報・ICT部

初のオンライン開催となった「令和2年度成果報告会」は、たくさんの参加者を迎え、無事に発表を終えることができました。M1は1年間の学びを中間報告として、M2は2年目の実践を交えたまとめを成果報告として発表することができました。終了後は、M1、M2の院生に修了生も加えた懇談会も開かれました。話題は、早速、次の「新たなステージ」に向けた話題が中心となりました。修了生からの助言等が励みとなり、再出発となる充実した一日となりました。

さて、今回の通信は「新たなステージ」とも関連しますが、M1ストマス（学部卒院生）から「高度化実践実習Ⅱについての様子を知りたい」というリクエストに応え、M2ストマスに実習を終えた感想等をもらいました。実習に向けた、「心構え」の参考となりそうです。



【 成果報告会 M2発表の様子 】

新垣 愛さん

（実習校：日置市立伊集院小学校）



私は、これまで小学校での授業経験は3回だけでした。そのため、できるだけたくさん授業をして、経験を積みたいという思いで実習に臨みました。

たくさんの先生方のご協力を頂き、1、2学期を通して3年生の4クラスで50回近く授業をすることができました。数をこなせば良いというわけではありませんが、回数を重ねるうちに、同じ内容の授業でも、クラスごとで異なる子どもの反応を楽しむことができるようになりました。本実習での学びを4月からの教員生活に生かしていきたいです。

瀬戸口 達洋さん

（実習校：始良市立蒲生中学校）

教職大学院2年次の実習では、学部の教育実習や教職大学院1年次の実習と異なり、1つの学校で長期にわたって継続的な実習を行えました。

自己の指導法に関する探究を深められたことはもちろんですが、学校行事に携わったり、校内研修に参加したりする機会がこれまでの実習よりも増え、勉強になりました。

生徒との関わりが増えたり、実習校の先生方と一から関係を構築したりした経験は、教員を志す自分にとって貴重な経験となりました。



森園 菜奈美さん

（実習校：鹿児島市立伊敷中学校）



初めに、この場を借りてコロナ禍で行事等も最小限の人数で開催していた中、実習生を受け入れ学ぶ機会を与えてくださった伊敷中学校に感謝申し上げます。

伊敷中学校は鹿児島大学代用附属学校のため、通常の公立校ではできない貴重な経験をすることができました。大学の教授や市や県の教育委員会の指導主事と連携しながら研究を進めている様子や生徒主体で行事を行う様子を参観することができ、教師の仕事の難しさを感じると同時にやりがいや喜びを学ぶことができました。

【 うれしいお知らせ 】

ご存じの方も多いと思いますが、南日本新聞1月19日付けの「ひろば欄」にM1の八木さんの文章が掲載されました。教職大学院で学ぶM1全員の気持ちにも通じる内容で心打たれる内容でした。「今年度のコロナ禍での学び」や「学び続ける私たちの気持ち」を象徴する内容と言えると思います。全文を掲載します。



「新たな自分へ 学び続ける大切さ」

鹿児島大学
教職大学院一年 八木 詩穂香

昨年四月、教職大学院に入学した。私はここで学び続けることの大切さを学んでいる。学部を卒業後、教授の勧めで大学院を受験したが、あることから非常勤講師として半年間、母校の小学校に勤務することになった。期待であふれていた。しかし実際に働いてみると現実の間に大きなギャップを感じた。学生ではない。それだけで責任や仕事の重さは増した。力量不足を痛感し涙を流す日もあった。

貴重な体験を経て教職大学院へ入学した。集まった同期は、学部卒生と県内の学校で働く先生方。年代は幅広いが皆、より高度な専門職を目指す仲間である。

最初の講義はオンラインだった。何度も実習が中断され、オンラインでの成果発表が続いた。対面で語れない苦しさやもどかしさ、一日中画面と向き合った後の疲労感。それすら仲間と直接共有できない日々は正直辛かった。

しかし、激動の時代を生きる子どもたちの未来のために、私たちは学び続ける。そして理論と実践を体得したその先には、新たな自分が次の扉を開けるのである。

(鹿児島市)

【 新コーナー「訪問！研究室！！」 】

第1回目は、海江田先生の研究室です。3月末で退官されるということもあり、研究室の片付けも少しずつ始められているなか、係の2人で訪問させてもらいました。

Q1 研究室のこだわりは何ですか？

A1 実はこの研究室は3カ所目で、気が付くといつも机を入口の方へ向けて使ってきました。以前の部屋では観葉植物を置いていた時期もありましたが、引っ越しが続いて、加えて退職することも意識始めると、できるだけ本や荷物等を増やさないようにしてきました。

Q2 退官後は、ゆっくりと旅をしたいと話されていましたが、訪れたい旅先はどこですか？

A2 コロナの感染流行前は、新聞で「鹿児島発着イタリア10日間（ぐらい）の旅行」の広告を読みながら、夫婦で訪れたいと思っていました。…今の状況では、しばらくは難しいかな。この季節の関心事は「花見」です。京都の「醍醐の桜」を満開に合わせて観てみたいです。桜に合わせて宿を取るのが難しいので、新幹線の日帰り旅行もありかなとも思っています。コロナに加えて今年は開花が早そうでこれもムリかな。九州の阿蘇や湯布院などへも、また車で訪れたいですね。体力があるうちに、いろいろと巡りたいです。

Q3 教職大学院での一番の思い出は何ですか？

A3 離島実習で、硫黄島に2回、獅子島に1回、院生を引率しました。その中で、院生と飲んだり、語ったりしたことが良い思い出として残っています。

Q4 先生の考える教職大学院の魅力は何ですか？

A4 私は現場主義で、現場で何が出来るか、現場で試行錯誤しようというのが自分のスタイルです。ただ現場主義は独善に陥る可能性を感じます。独善に陥ってしまわないよう、1年間、現場から離れて自分の実践していることに対して理論で裏付けしながら再度見直すという時間が貴重なんだろうと思います。現場で働く際は、現場に理論をそのまま持ち込むのではなく、自分の中で学んだことを消化し、自分の言葉にして進めることが大切だと思います。

Q5 かつて高校の教員であった立場から、小・中学校の教員に求めたいことは何ですか？

A5 基礎学力をきっちりと身に付けることにつきます。大学進学等という面から言えば、小中学校での差を高校の3年間ではなかなか取り返せない現実があります。それはともかく、例えば、毎年、高校入試の数学で四則演算の計算が100%の正答率にならないのはなぜでしょう。それでおつりの計算ができるのか、生きる力とも関わりがある部分だと思います。子どもたちが社会に出て困らない学力を身に付けさせたいものです。

Q6 若い世代（ストマス世代）のうちに求めたいことは何ですか？

A6 鹿児島の方で「若けときの苦勞は、こうて（請うて、買って）でんせい」という言葉があります。とにかくやってみようという気持ちをもってほしい。みんな失敗をして、その経験を糧に年をとっていくんです。たびたび来る山（困難）を乗り越えていけるように、「ストレス耐性」をできるだけ付けるということも必要です。「太い神経」をもってほしいですね。その他に、教え子の高校野球県大会のプレーを年休を取って応援に出掛けたエピソードやスイーツが好きなこと、漫画を読み始めたきっかけ等の話を伺いました。コロナが収まったら、飲み会に誘ってよいですかと尋ねると「ぜひ、いきましょー！」とうれしい返答もいただきました！



【教職大学院の先生方の紹介 第3弾】

今回も引き続き、教職大学院の先生方に「いくつかのテーマ（選択も可）」を出させてもらい、自己紹介文を書いていただきました。

講義からは知ることができない、思わず笑みがこぼれてしまうエピソード等が満載です。

もっと詳しく話が聴きたい人は、講義の合間に尋ねてみてください。

假屋園 昭彦 先生

① 私のふるさと、私のふるさと自慢

長崎市です。坂の街です。長崎を出るまで、通学に自転車が使われていることを知りませんでした。

② 最近のマイブーム



ポメラニアンという種類の犬を飼っています。名前は小吉（こきち）です。犬の心はとても広いです。私が出かける時には、「自分も連れていけ」などとわがままなことは言わず、黙って見送ってくれます。一方、私が帰宅した時には、とても喜んで出迎えてくれます。犬の広い心を私も見習いたいと思います。

③ 頑張った自分へのご褒美

温泉が好きなので、ゆっくり温泉につかることですかね。



④ 私の研究

道德教育と対話の研究をしています。

30年近く続けていますが、道德も対話もアプローチの窓がたくさんあって、飽きることがありません。

「テーマ」 ※ 選択も可

- ① 私のふるさと、私のふるさと自慢
- ② 最近のマイブーム
- ③ 頑張った自分へのご褒美
- ④ 私の研究

小学生に紹介するぐらい、かみ砕いてお願いします。

海江田 修誠 先生

② 最近のマイブーム

自宅のテレビに Wi-fi をつないで映画やアニメなどいろいろなコンテンツを見ることができるようになりました。鉄腕アトムテレビを白黒で見た世代としては隔世の感があります。この1年で面白かったものを4作あげてみます。最初に見たのは「キングダム」。戦いの連続で人がどんどん死んで残酷な場面がたくさんありますが、実写映画になって青春群像劇として話題になりました。中国史の時代考証にも興味が沸きます。その次が「鬼滅の刃」です。今年すごいブームになりましたね。次に見た「弱虫ペダル」も実写映画になりました。自転車のロードレースがチーム戦で、メンバーそれぞれが自分の役割を果たすことが求められる過酷な競技であることを初めて知りました。免許更新の講座で組織の話をするときに紹介したことを思い出します。最後に今マイブームなのが「Dr.STONE」という作品です。突然不思議な光線によって地球上のツバメと人類が石になってしまうところからスタートするのですが、5000年後、復活した主人公が科学の力を利用して仲間を増やしながらかつて文明をとり戻そうとする話です。いずれの作品も物語の背景がよく勉強されていると感じる作品です。皆さん、教職大学院の勉強に疲れたらぜひ見てみてください。

廣瀬 真琴 先生

① 私のふるさと、私のふるさと自慢

福井県出身です。のんびりとした小学生時代、友人などに恵まれた中高生時代。若いっていいなあ。

② 最近のマイブーム

自粛生活をいかに楽しむか、ですね。

現在、ネコか兔を飼おうかなあと思案するのがマイブームです。はたして自分に、個別最適化された学習（育成）環境をかれらに提供できる資質・能力、財力があるのか？



④ 私の研究

この数年は、IRが主です。統合型リゾート推進法案のことではありません。ざっくりとした説明になりますが、学校の先生方が、互いの教室や学校を巡りあい学びあうネットワーク型授業研究のことです。

現在、教育委員会の方や学校の先生方にご協力いただきながら研究を進めています。

迫田 孝志 先生

③ 頑張った自分へのご褒美

公立学校を定年退職して3年が過ぎようとしています。アレルギー性鼻炎と多少の高血圧傾向はありますが、大きなケガや病気をせず学生のみなさんと一緒にキャンパスライフができるのも、丈夫に産み育ててくれた両親と、日頃から物心両面で支えてくれる妻のお陰だと感謝する毎日です。

そうは言っても運動不足の体はどんどん老化現象が進み、体力に自信がなくなってきました。そこで、これまでの自分へのご褒美と健康維持のために通販でフィットネスバイク（安い機種）を購入しました。歴史ドラマのビデオを観ながら20分程度ペダルをこぐと200k cal消費の数字が出て嬉しくなります。ウォーキングでは、時速約6kmで30分3km歩いて200k cal位ですので、天候に左右されずいつでも効率よく適度な運動ができてとても喜んでいるところです。

ストレスマネジメントの様々なコーピング方法を知っていてもそれを継続しなければ意味がないのと同じで、三日坊主に終わらせず、毎日、ちょっとずつペダルをこいでみようと思っています。